Osaka University Knowledge Archive

Title	大阪大学看護学雑誌　19巻1号 新任特集
Author(s)	小西, かおる
Citation	大阪大学看護学雑誌. 2013, 19(1), p. 61-61
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/56865
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

—新 任 特 集—

地域における看護の魅力

2012年1月1日に大阪大学に赴任して、早いもので1年以上が経過しました。大阪に来て、まず「この地域を知りたい」と思い、常に地図を携帯し、地域看護学実習での学生指導をきっかけとしながら、足しげく地域に通い、保健師をはじめ多くの方々と交流を深めてきました。地域の方々にも少しずつ存在を認知していただき、大阪府の保健師現任教育や地域での様々なネットワーク会議等にも関わらせていただけるようになりました。大学における基礎教育と現任教育の連携および研究・教育活動のフィールドの基盤が整いつつあるのを感じています。

無法松の一生で有名な北九州市小倉生まれの玄海育ちで、千葉大学看護学部の入学をきっかけに関東に移り住みました。その後、臨床経験を経て米国留学ののち、東京大学大学院医学系研究科にて開設されたばかりの地域看護学を専攻し、博士(保健学)を修得しました。

留学先のニューヨークは、看護師であり医学生でもあったリリアン・ウォルドが、イーストサイドの一角にあるヘンリー通りに、1895年、世界で初めての看護師セツルメントを開設した地で、公衆衛生看護の原点とされています。まさに人種のるつぼで、様々な人々がそれぞれの生活様式を大切にしながら生きている地域であり、健康と生活、地域特性との関係などを深く考える時間であったと思います。その経験が、地域看護学を専攻するきっかけとなったのは言うまでもありません。

大学院時代は、1994年の新ゴールドプランに伴う「新寝たきり老人ゼロ作戦」の真最中であり、高齢者の自立を支援する観点から、地域リハビリテーション事業の推進、市町村保健センターの整備が進められていた時期でした。同時に、地域保健法が制定され、地域保健事業における市町村保健センター、保健所の役割が明確にされた時期でもあります。さらに、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正により1997年には看護専門分野の7領域の1つとして「在宅看護論」が加えられました。地域看護、公衆衛生看護、在宅看護といった地域を基盤とする看護領域のニーズが急速に高まり、学問としての発展が求められる時代であったといえます。

その後、東京都神経科学総合研究所(現 東京都医学総合研究所)における難病との出会いが、ライフワークを決定づけるものとなりました。ALS(筋萎縮性側索硬化症)を代表とする神経難病療養者の行動力や家族の深い愛情による支え、様々な困難に立ち向かう姿に多くのことを教えられ、この分野の看護の発展に貢献したいと強く思うようになりました。そして、神奈川県にある昭和大学において地域・在宅看護学の基礎教育と現任教育の継続システムを目指して活動を始め、2012年からは大阪にもその活動範囲を広げてきました。

地域には、様々なドラマがあります。それらのドラマから教えられることは多く、地域の人々が安全に安心して暮らしていけることを願って支援しているうちに、いつの間にか自分自身が支援されていることに気づきます。そんな、地域における看護の魅力に出会ってみませんか?

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
統合保健看護科学分野 総合ヘルスプロモーション科学講座
小 西 か お る